

例年よりも2週間ほど季節が早くやってきました。出合いの会では桜が咲きほころび、タラの芽は、既に終盤となり、連休後に満開となるはずのリンゴが、今満開となっています。春の花々の美しさは、寒い冬を耐えた夜明けのようにこの上ない喜びでいっぱいですが、早産・早熟にその後の苦しさがあるように、季節の早さにもちょっぴり不安を覚えます。

しかしながら、子どもたちは春のエネルギーをしっかりと吸収して、コゴミやタラの芽が一晩に大きく成長するように、この4月で一回り大きくなっているように実感します。新入室児は、大地のペースにすっかり慣れてきて、年中児は、自信と安定がどっしりと備わり、年長児は風格が出てきました。

ノビル、カネチョロ、鯉のぼりと、定番の4月のキーワードで毎日子どもたちは盛り上がっています。雨が降っても、カッパを着て、天候に左右されることなく、毎日必ず外で遊んでいます。雨をネガティブに捉えることなく、当然の如く、自然の移ろいを感じて過ごす毎日です。一年中で一番躍動感のあるエネルギー溢れる美しい春の大地です。

今年の大地のポイントは、原点回帰。3本柱（お話絵本人形劇・農業の食活動・自然活動）を最優先に行うこと。童3月号に書いた文章「自分の時間を見も知らない人や他人のために使えるのは、人間だけです。そこでは、時間が一番生きて輝き、使えばえがあるものです。そして深い愛しさや喜びがうまれてきます。子どもが愛しいのは、親が純粋に自分の時間を子どもに使うからでしょう。」ののほな文庫で、ののほなさんが我が子以外の子どもを抱っこして本を読んであげている姿は、まさにこれでした。大地の3本柱を通じて、一人一人が多



【久しぶりに我が子便り】

孫が生まれて4ヶ月弱。孫 あるちゃんの成長に眼を奪われがちである中で、我が子5人（長男のお嫁さんも含む）の成長も書き留めておきたいと思います。

まず長男夫婦。2月中旬。長男とバックカントリーで野沢温泉から山を下り、そのまま妻と由佳ちゃんと孫が待つ家へ到着すると、妻のおんぶしている姿。「まだ首がすわってないのに、妻が何でおんぶしているの？」と疑問と不安を抱いていると、何とそれは赤ちゃんではなく、お米でした。由佳ちゃんも同じようにお米をおんぶしていました。「麴を作っている」と言うこと。麴菌は、37度前後で発酵するので、人間の体温がベストだと言う。半信半疑でしたが、見事に一週間後に素晴らしい麴ができあがり、無事味噌を仕込めたそうです。これは驚きでした。

更に驚いたのは、通称「あるちグルト」。赤ちゃんの手は乳酸菌がたくさんあるので、豆乳に手を入れてヨーグルトを作っているという話。ボールの上に赤ちゃんの手をかざし、上から手に豆乳をかけて作ったとのこと。最初はなかなか発酵しなくて諦めた頃、出来た出来た！！。妻はその種をもらい、ずっと繋いで毎晩感激して食べています。

ネットをやっていないこの夫婦は一体どこからこんなノウハウを学んでくるのか！？

公共機関を使って、先日野沢温泉から電車で親子3人餅つきにやってきて、帰りは、上今井の駅から見送りました。電車の車窓から手を振り、電車が見えなくなるまで手を振って見送る時間とその世界。自動車とは違い、趣のある余韻。こんな機会をありがとと、感謝の気持ちが湧いてきました。

次の、長女野乃花。スノーボードバックカントリーに目覚めて北海道から帰ってきて一週間後、青ちゃんの90リットルのザックを軽々と担いで、ネパール5500mにゴージャブピーク単独トレッキングに出発していきました。4年前私たちが飛行機で移動した場所を最初から歩いて踏破していくという男顔負けの単独行。もちろんメールや電話は通じない。高山病が命を奪うので、高度順応が必須。18歳頃までは、絵と料理と吹奏楽などの超インドアだった娘が、何という変貌か。やはり、大の仲良しである兄の影響か。恋人は、弟のゆっくん（ゆうが）であり、愛しいのは末っ子のゆうなという娘。そんな娘は、びっしりとスケッチブックに、毎日の絵日記を色鮮やかに書いてきた。まもなく、文庫に飾られるでしょう。そして、無事帰国して4日間ほどで、北アルプス奥地裏銀座の太郎平小屋開けのために、またまた90リットルを背負い、更にスノーボード一式を担いで、雨の中登っていった。このエネルギーは一体何だろう！？

次に、次男の雄河。兄弟の中で一番穏やかで堅実か。外国よりも国内をバイクで温泉巡りをしたり、テニスをしたり、恋人と過ごしたりしている。派手に動き回っている他の3人とは確実に一線を画している。実家の老両親と一緒に住んでおり、祖父母孝行をしている。青ちゃんと同じく、23歳で専門学校に入り、末っ子と同じ年齢の子達と学んでいる。学費は出してあげているが、生活費や遊費は、全てアルバイトで賄っている。それでも、学校はほとんど休みなく出席し、成績はピアノを含めてトップクラス。実習も、子どもたちから大人気らしく、実習が終わっても、通い詰めているらしい。自分の事を良くも悪くもしっかりと自覚しているので、親としては信頼して最終的には安心している。それな、何よりも、心配りや配慮などの心優しさが抜群であり、老若男女誰にでも本当にやさしい。マネージメント能力も優れており、他の兄弟達も一目を置いている。娘が言う「王子」のように、誰からも愛される。老両親もお気に入り。

最後に末っ子の雄和。小さい頃から、兄姉の姿、それに対する親の姿を見ていて上手に振る舞ってきたようだ。野球一筋で真摯に向き合いながらも、しっかりと大好きな長男の行動を見てきたらしい。気が小さい末っ子と見ていたが、高校卒業頃から、やはり結構変わっているらしいと気がついた。一番親の怖さを知りながらも、いい範囲内で外ではけっこう「やっつけてくれるな」という感じ。面倒見が良く、友だちも幅広く、専門学校に行く頃から、アルバイトをして海外へちょこちょこ行くようになる。「質問魔」と言うぐらい、兄たちにも事細かく質問してきて、調査し研究し、友だちを連れて海外へ行き始める。この春は、娘と前後して、一ヶ月弱、ヨーロッパからエジプト、タイ方面へ行ってきた。それも、各地で、中学、高校、専門学校の仲間をコーディネートして、それぞれ一緒に行動したらしい。すべて、末っ子が旅行会社並みに手配したようだ。それでも、親の恐ろしさを知っているのか、鍼灸の国家試験のために、最後の1年間は、猛勉強しておとなしくして、卒業後は海外へ行って働く決めてる。

長男の妻の由佳ちゃんは、言わずと知れた超ファンタジック・メルヘンな女性。そうでなければ、長男と一緒に暮らすことは出来ない！？しかし、エネルギーが溢れすぎて、丁寧。50歳まで産み続けるらしい！！いろいろなことを知っていて、私たち夫婦も眼を覚まされることが多い。

とにかく、青山家の子どもたちは仲が良い。それは、妻のお陰だと思う。子どもたちの小さい頃から、誕生会、お祝い事、嬉しいこと、様々な機会に、皆で寄せ書きやメッセージを作り、手間暇かけて料理を作り、心を配る機会を作ってきた。今でも親や子どもや青ちゃんや由佳ちゃんの誕生日や子どもの壮行会にも、皆にメッセージを手配して作っている。その真心は、確実に子どもたちに受け継がれている。青ちゃんはと言うと、階段に所狭しと張られている家族写真。子どもたちは、毎日見ざるを得なかった小さい頃からの家族の光景。仲が良いという絵画的姿をインプットすることに一役買ったか？現在は、夫婦2人で仲良く、毎日懐古して、階段を昇降している。